

く向上しており、先天性心疾患に対する治療体系は再編成される可能性がある。先天性心疾患の治療は乳児から老人に至る長期的なスパンのQOLを考慮する必要があるので、一つ一つの治療法について、リスクや長期予後を検証しながら体系化する必要がある。

このうち先天性心疾患に対する手術件数は約1万件である。これらの患者を早期に発見し、しかるべき施設で正確な診断と手術を含めた適切な治療を行い、かつ生涯にわたって経過観察を行い、必要に応じて適切な治療を行える診療体系を有する社会基盤の早期構築を推進することが今後の課題である。

先天性心疾患治療の専門施設の集約化

先天性心疾患は後天性心疾患に比べて患者数としては少数であるが、疾患の数とそれぞれの疾患に必要な手術の種類が多く、年齢的にも新生児期早期から乳児期、幼児期、小児期、学童期、さらには成人期と幅が広い特徴がある。先天性心疾患の診療には独特の専門性を有する医師をはじめとする医療従事者と施設が必要である。日本胸部外科学会の学術調査によれば、全国での年間心臓手術件数は約5万件、

成人に達した先天性心疾患患者の管理と治療

先述のごとく、現在、術後患者を含めた先天性心疾患患者数は50万人程度であるが、今後数十年はさらに増加し続けることが予測できる。これらの先天性心疾患患者は数の上ではすでに成人例の方が多くなっており、これまでの小児科診療から、欧米では確立されつつある先天性心疾患を専門に診療できる専門医の育成と成人先天性心疾患患者専門の診療体制が必要になっている。

今月の 用語 隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【健康日本21 (21世紀における国民健康づくり運動)】 英 Health Japan 21

〈解説〉 2000年に策定された21世紀における国民健康づくり運動。2010年をめどに具体的な数値目標を提示し、健康に関係するすべての団体・機関、国民が一体となって健康づくりを推進する。普及啓発、推進体制整備・地方計画支援、保健事業の効率的・一体的推進、科学的根拠に基づく事業の推進が行われている。急速な高齢化や生活習慣のために疾病全体に占める生活習慣病（がん、虚血性心疾患、脳血管障害、糖尿病等）の割合が増加し、生活習慣病に係る医療費が約3割を占めているが、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会とするために生活習慣の改善等に関する課題について目標を選定し、国民が主体的に取り組める健康づくり運動として策定された。認知症や寝たきりにならない期間である健康寿命の延伸や生活の質の一層の向上を実現するため健康づくりや疾病予防を積極的に推進するために、栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康、糖尿病、循環器病、がんの9分野において数値目標が設定された。具体的には成人（20-60歳代）男性のBMI 25以上の肥満者が平成9年の国民栄養調査で24.3%であるところを15%以下にする、日常生活における歩数を8202歩から9200歩に増加させるといった70目標値が設定されている。

〈関連団体〉 厚生労働省、健康・体力づくり事業財団：厚生労働省

(伊藤澄信)